

## 契約の箱と幕屋との歴史

聖書：サムエル上 4:1—7:2

- I. キリストがわたしたちを得たのは、わたしたちが彼を得て、それによって神がわたしたちの中へと建造し込まれることができ、またわたしたちが神の中へと建造し込まれて、団体の神・人、すなわち神の幕屋としての召会の実際となることのできるためです。この召会は、生ける神の家、神と人の相互の住まいです——ピリピ 3:8, 12-14. ヨハネ 1:14. 啓 21:2-3. 7:15. I テモテ 3:15. ヨハネ 14:2, 23.
- II. キリストのからだの実際の中へと入るために、わたしたちは契約の箱の内面的な意義を見なければなりません：
  - A. 契約の箱が予表するのは、三一の神の臨在として彼の民と共にいて、彼のエコノミーを遂行し、彼の王国を地上で確立するキリストです——マタイ 1:23.
  - B. 契約の箱は幕屋の中心また内容でした。これは、キリストが召会の中心また内容であることを表徴しています。契約の箱が幕屋のビジョンの中で最初に述べられている項目であることが示しているのは、キリストが召会の中で首位を占めているということです——出 25:22. コロサイ 1:17 後半, 18 後半：
    1. 契約の箱は律法の板を入れていました。律法は神の証し、神がだれであるかの表現また啓示です——出 25:16. 31:18.
    2. 至聖所の中の契約の箱は、神の住まい(召会)の中心(エベソ 2:21-22)また神の家である召会の内容としてのキリストを表徴します(I テモテ 3:15-16. 参照、サムエル上 4:22. 啓 3:20).
  - C. 金で覆われたアカシア材の箱が表徴するのは、神の具体化また神性と人性のミングリング(神と人の建造)として、わたしたちの霊の中に住んでいる霊なるキリストであり、それはわたしたちが神と接触し神を享受するためです——II テモテ 4:22. II コリント 3:17. コロサイ 2:9. ヘブル 9:4：
    1. アカシア材が表徴するのは、性格が堅固で標準が高いキリストの人性です。キリストの人性は、神を表現するための基本的な実質です——出 25:10. マタイ 3:16. 4:4. 8:20. 9:12-13. 11:29. 12:19-20. 17:27. 20:28. 27:12, 14. マルコ 1:35. 6:39-41. ヨハネ 6:12. 7:6. 参照、使徒 16:7.
    2. アカシア材が内側も外側も金で覆われていることが表徴するのは、神聖な性質が人の性質に浸透し、人の性質の上にとどまって、人の性質を通

して表現されるということです——出 25:11. 啓 3:18 前半. II ペテロ 1:4. 参照、啓 17:4。

D. 契約の箱の上にあるなだめの蓋<sup>ふた</sup>は、神と彼の贖われた民とが会う場所としてのキリストを表徴します——出 25:17-22 :

1. キリストはなだめる方であり(ヘブル 2:17)、神とわたしたちの間の関係を和らげる方であり、なだめの供え物としてのご自身を通して、神の要求を満たすことによって、わたしたちを神へと和解させる方です(I ヨハネ 2:2. 4:10)。
2. キリストはまた、彼の神性の輝きと彼の人性の贖いを持つなだめの蓋でもあります。それは、わたしたちが神の御前でなだめを享受する場所であり、またわたしたちがわたしたちの義で、聖で、栄光の神と会って交わり、彼を恵みとして受けることのできる場所です——ローマ 3:25. ヘブル 4:16 :
  - a. なだめの蓋の上の金の二つのケルビムが示しているのは、神の栄光がキリストから輝き出るということです(出 25:18-20)。なだめの供え物の血が契約の箱のなだめの蓋の上に振りかけられたことが表徴するのは、キリストの贖いの血のゆえに、わたしたちは彼の栄光のただ中で義なる神と交わることができるということです(レビ 16:14-15)。
  - b. 神がわたしたちと会えば会うほど、わたしたちと語れば語るほど、またわたしたちが神と会えば会うほど、彼の語りかけを聞けば聞くほど、ますます神の証しがわたしたちの経験の中にあるようになります。

III. 契約の箱と幕屋との歴史は、神の証し、神の表現のための、神の心の願い、召会の荒廃、召会の回復を描写しています —— 出 25:9-10 . 26:26-30 . 40:38 :

- A. 契約の箱は幕屋の中心と内容として、キリストが、神の幕屋また神の家としての召会の中心と内容であり、神を団体的に表現することを表徴します——25:22. 40:21. コロサイ 2:9. エペソ 2:21-22. I テモテ 3:15。
- B. 契約の箱は、その歴史の第一の時期には幕屋の中にありました。これが表徴していることは、正常な召会がキリストの表現であり、キリストが召会の内容であったということです。しかしながら、契約の箱は最終的に幕屋から分離されました。これは召会が墮落し、キリストの実際と臨在を失ったことを表徴します——出 40:34-35. サムエル上 4:1—7:2。
- C. 契約の箱は、神の具体化としてのキリストを予表します。契約の箱はまた、三一の神の臨在として彼の民と共にいるキリストを予表しており、このキ

リストは、彼のエコノミーを遂行して、彼の王国を地上に確立します(ヨシュア 3:3, 10-17)。契約の箱を持ち出すことは、神の臨在を持ち出すことでした(民 10:33-36, サムエル上 4:3-4)。

- D. 契約の箱の行動は、神の具体化としてのキリストにおける、地上での神の行動の絵でした(詩 68:1-18)。しかしながら、イスラエルがペリシテ人と戦っていたとき、神には行動する意図はありませんでした。
- E. イスラエルの子たちには、神のエコノミーに対する考えや関心はありませんでした。彼らが契約の箱をペリシテ人との戦いに持ち出したことは、彼らが自分の安全、平安、安息、利益のために神を不法に用い、さらには神に強いて彼らと一緒に出て行かせたことを示しました。
- F. 原則において、わたしたちは神のエコノミーを考慮することなく自分の繁栄のために祈るときはいつも、同じ事を行いません。わたしたちは神を不法に用いるのではなく、サムエルのように、神の心にしがたって、また神のエコノミーのために、祈り、生活し、神の心にしがたって、また神のエコノミーのための人となるべきです。
- G. 今日、人々は神の証しを人の必要に置き換えています。人の必要が神の証しに置き換わる時、墮落が始まり、問題が生じます。契約の箱は神の箱であっただけでなく(サムエル上 4:11, 13, 17-19, 21-22)、証しの箱でもありました(出 25:22, 40:21)。
- H. イスラエルは悔い改め、徹底的な罪の告白をし、彼らの偶像から神へと立ち返り、神が彼らに何を行なってもらいたいかについて神に尋ね求めるべきでした。
- I. 彼らは神の願いや神の永遠のエコノミーに対して心がなく、契約の箱の行動を通して経験した過去の勝利に基づいて、彼らの迷信によって契約の箱に信頼しました。
- J. イスラエルの墮落のゆえに、契約の箱はペリシテ人によって奪われ、幕屋から分離され、幕屋を実際のない、正常な内容のない空の器としました(サムエル上 4:11-6:1)。これは、召会歴史の第二段階で、召会が墮落し、キリストの実際と臨在を失ったことを表徴します(第3章—第4章, 啓 3:20)。
- K. 墮落したイスラエルは愚かでした。なぜなら、彼らは直接、神に信頼しなかったからです。むしろ、彼らは神が定めた制度に信頼しました。彼らは神の箱を幕屋から持ち出す前に、ヨシュアがエリコで行なったように、神を確認すべきでした(ヨシュア 6:2-4, 参照, 9:14)。
- L. わたしたちは霊の深みから主に向かって言うべきです、「主よ、わたしがこ

の地上にいるのは、わたしの健康や、わたしの繁栄や、わたしの安全や、わたしの平安や、わたしの安息や、わたしの利益のためではありません。わたしは真の、勝利を得たナジル人となってあなたと協力し、あなたのエコノミーを成就したいので、わたしに関してあなたの心に何があるかをあなたに尋ねます」——サムエル上 2:30 後半, 35. 民 6:1-9. 参照、列王上 8:48. エレミヤ 32:39。

- M. 墮落したイスラエルの子たちは、神を極みまで怒らせたので、神は彼らを離れました。最終的に、契約の箱がイスラエルを救うのではなく、契約の箱そのものが奪われ、神の栄光はイスラエルから離れました(サムエル上 2:30, 34. 4:10-18, 22. 詩 78:61)。「契約の箱がないこと」は、「キリストがないこと」であり、「キリストがないこと」は、「栄光がない」を意味する「イカボデ」がいることです(サムエル上 4:21-22. 啓 3:20)。
- IV. 後ほど、契約の箱は回復され、まずキリアテ・ヤリムでアビナダブの家にもたらされ、そこに二十年とどまり(サムエル上 6:2-7:2)、次にガテ人オベデ・エドムにもたらされて、そこに三か月とどまりました(サムエル下 6:1-11. 参照、サムエル上 1:24. ヨシュア 18:1)。これが表徴しているのは、第二世紀に始まって、多くの「オベデ・エドム」が起こされ、彼らは主の臨在(契約の箱)を持っていましたが、キリストの表現としての正常な召会(幕屋)を持っていなかったということです。
- V. ダビデは契約の箱をオベデ・エドムの家から、彼自身の町、シオンの山、エルサレムの最上の場所に、用意した天幕へ運びました(サムエル下 6:12-19. 歴代上 15:1-16:1)。これは進歩した状況でしたが、契約の箱はなおも不正常的な場所にありました。なぜなら、それは幕屋に戻されていなかったからです：
- A. この状況が表徴するのは、他の信者たちは、ダビデのように、神の權益を顧みて、召会生活を実行しようとしてしましたが、それは彼ら自身の選択にしたがってであり、神の啓示にしたがってではなかったということです。
- B. これらの信者たちはキリストを持っていましたが、召会生活の不正常的な実行(エルサレムにおけるダビデの天幕によって予表される)と共にキリストを持っていました——参照、列王上 3:3-15。
- VI. 最後に、ソロモンがエルサレムで宮の建造を完成した後、契約の箱は宮の至聖所の中へと運び込まれました。これは正常な状況の完全な回復でした。主は今日の主の回復の中で、正常な状態を回復するために働いています。その状態とは、キリストが、キリストのからだの実際としての正常な召会

の中において、ご自身を表現している状態です——列王上 8:1-11, 48. エペソ 2:21-22. 3:16-21。

VII. 契約の箱と幕屋との歴史は、召会歴史を予表しています。これは、最初期から現在に至るまでの召会の行程と状況の完全な描写を与えています。この歴史には五つの主要な面があります：

- A. 第一の状況は、キリストがその中にある召会の状況です。これは幕屋の中の契約の箱によって予表されています。契約の箱は内容であり、幕屋はその表現です。これは完全に正常な状態(キリストが召会の内容であり、召会がキリストの表現である)にあった召会の最初の段階の絵です——出 40:34-38. エペソ 3:16-21。
- B. 第二の状況は、キリストがその中にいない召会の状況です。これは神の民の失敗のゆえに、契約の箱が奪われ、幕屋から分離したことで予表されています。幕屋が空になったことは、クリスチャンの失敗のゆえに、召会がキリストの実際と臨在を失ったことを描写しています——啓 2:4-5. 3:20。
- C. 第三の状況は、召会のないキリストの状況です。これは、幕屋のない契約の箱によって予表されています。まずキリアテ・ヤリムでアビナダブの家に二十年(サムエル上 7:1-2)、次にガテ人オベデ・エドム之家に三か月(サムエル下 6:10-12)、契約の箱は幕屋から離れていました。召会歴史は、第二世紀から現在に至るまで、多くのオベデ・エドムがいることを啓示しています。
- D. 第四の状況は、不適切な召会を伴うキリストの状況です。ダビデはエルサレムに契約の箱のための天幕を用意しましたが、それは神がモーセに啓示した型にしたがっていませんでした。多くのクリスチャンは不適切な召会を伴う契約の箱(キリスト)を持っています——サムエル下 6:17. 歴代上 15:1. 歴代下 1:4. 出 25:9。
- E. 第五の状況は、正常な召会を伴うキリストの状況です。これは正常な幕屋を伴う契約の箱によって予表されています。この幕屋は拡大され、増し加わって、宮となっています。このような状況(キリストの表現としての正常な召会を伴う実際としてのキリスト)において、わたしたちは完全に家にいると感じます——詩 90:1-2. 91:1-16. 92:12-15. 132:5, 8. 歴代上 28:11-20. 歴代下 3:1。